

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	ET	13856	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人	選択	1	市教委人権同和指導主事県特別活動研究部長坂神淡路震災避難所支援市公開異人館副館長		

授業の到達目標

子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の方法、子ども理解、教育評価等について学修し、授業の設計技術を修得する。さらに、多様な教材の活用を通じて授業展開の方法を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

学校教育の理念に基づいた教育を実践するための方法や知識を身に付け、基礎的な学習理論と指導技術を学ぶ。

授業計画

- 1 教育方法学の歴史
- 2 カリキュラム論
- 3 教科書と学校教育の関係
- 4 授業の構造について
- 5 教育技術論
- 6 授業の方法と実践
- 7 学力と教育評価について
- 8 模擬授業実践(人権教育)、まとめ

授業の方法

最初に、まとめてレジメを配布し授業を進め、レポート作成やロールプレイに取り組む。

準備学修

Webで参照（中学校学習指導要領等）しておくこと

課題・評価方法、その他

課題：各回の講義中に課題を出すのでレポートを提出すること
評価方法：平常点70%、試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること

テキスト

なし

参考図書

中学校学習指導要領解説（総則編）ぎょうせい出版

留意事項

最初に配布した資料をもとに授業を進める。毎回レポートも作成する

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育におけるICT活用		13859	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
渡辺 卓也	選択	1			

授業の到達目標

教育におけるICTの活用について現状を知り、理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

初等中等教育におけるICT活用のねらいを理解し、その方法について具体例を通して知る。

授業計画

- 1 学習指導におけるICT活用の考え方
- 2 ICTを活用した学習指導について
- 3 ICT機器について
- 4 興味関心を高めるICT活用の具体的な方法や場面
- 5 一人一人の能力を引き出すICT活用の具体的な方法や場面
- 6 思考や理解を深めるICT活用の具体的な方法や場面
- 7 学習準備と評価に関するICTの活用
- 8 まとめ プログラミング教育

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①講義の中で、キーワード等をもとに振り返りを行う
- ②評価については、平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準ずる。

テキスト

必要に応じて資料提供する

参考図書

必要に応じて紹介する

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論 (中高)			13853	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	阪神淡路大震災学校避難所支援市教委和教室指導主事公開異人館副館長文科省海外派遣教員			

授業の到達目標

社会の状況の変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、それに対応する教育施策の動向を理解する。また、公教育が果たしている社会制度的な意義について考察し、学校教育の基本的な知識を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)の育成を目指す。

授業の概要

公教育の意義、原理、構造について法的な仕組みや基礎的な知識を学ぶ。さらに、こども園・学校と地域との連携の取り組みの中から全ての学校種の在り方や危機管理について考察する。

授業計画

- 1 はじめに、公教育について
- 2 教育行政と公教育の仕組み
- 3 教育改革の歴史概要
- 4 教職教養のまとめ、教育時事
- 5 現代の学校で学ぶもの
- 6 学校経営と教師力
- 7 学校と地域の連携と協働Ⅰ
- 8 学校と地域の連携と協働Ⅱ
- 9 学校力と課外活動(部活動)
- 10 安全教育、安全管理についての取り組み
- 11 学級経営における効果的な指導法
- 12 学校が災害時に果たす組織的な役割
- 13 学校における危機管理のあり方
- 14 開かれた学校づくり、人権感覚の醸成法
- 15 教育経営の基本(保護者対応と姿勢)・まとめ

授業の方法

最初に配布したレジメを中心に授業を進める。レポートを書くこと、グループディスカッション等を多く取り入れる。

準備学修

Webで世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に

調べる。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること。

テキスト

なし

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度、レポートを重視する。授業中に配布したレジメ等の資料を整理しファイリングしておくこと

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職中等		13852	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、公認心理師、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とE(倫理)の育成を目指す。

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバークの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

『教育相談ワークブック』桜井美加・齋藤ユリ・森平直子 著 北樹出版

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	教職幼小	17658	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人	選択	1	市教委人権同和教育室指導主事阪神淡路大震災避難所支援市公開異人館副館長県特別活動研究部長		

授業の到達目標

子どもたちに求められる資質・能力を育成するための方法、子ども理解、教育評価等について学修し、授業の設計技術を習得する。さらに、多様な人材の活用を通じて授業展開の方法を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、とI（知性）を養う。

授業の概要

教育計画の理念に基づいた教育を実践するための方法や知識を身に着け、基本的な学習理論と指導技術を学ぶ。

授業計画

- 1 教育方法学の歴史
- 2 カリキュラム論
- 3 教科書と学校教育の関係
- 4 授業の構造について
- 5 教育技術論
- 6 授業の方法と実践
- 7 学力と教育評価について
- 8 模擬授業実践(人権教育)、まとめ

授業の方法

最初に、まとめてレジメを配布し授業を進める。レポート作成やロールプレイングに取り組む。

準備学修

WEBで参照（小学校学習指導要領）しておくこと

課題・評価方法、その他

課題：各回の授業中に課題を出すので、レポートを提出すること
評価方法：平常点70%、試験30%

欠席について

やむを得ない事情があるときは事前事後に届け出ること

テキスト

なし

参考図書

小学校学習指導要領解説（総則編）ぎょうせい出版

留意事項

最初に配布した資料をもとに授業を進める。毎回レポートを作成する

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育におけるICT活用		17659	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
渡辺 卓也	選択	1			

授業の到達目標

教育におけるICTの活用について現状を知り、理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

初等中等教育におけるICT活用のねらいを理解し、その方法について具体例を通して知る。

授業計画

- 1 学習指導におけるICT活用の考え方
- 2 ICTを活用した学習指導について
- 3 ICT機器について
- 4 興味関心を高めるICT活用の具体的な方法や場面
- 5 一人一人の能力を引き出すICT活用の具体的な方法や場面
- 6 思考や理解を深めるICT活用の具体的な方法や場面
- 7 学習準備と評価に関するICTの活用
- 8 まとめ プログラミング教育

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①講義の中で、キーワード等をもとに振り返りを行う。
- ②評価については、平常点50%、定期試験50%。

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

必要に応じて資料提供する

参考図書

必要に応じて紹介する

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論	教職幼小PC		17713	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	阪神淡路大震災学校避難所支援市教委向和教育室指導主事公開異人館副館長文部省海外派遣教員			

授業の到達目標

社会の状況の変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、それに対応する教育施策の動向を理解する。また、公教育が果たしている社会制度的な意義について考察し、学校教育の基本的な知識を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

公教育の意義、原理、構造について法的な仕組みや基本的な知識を学ぶ。さらに、こども園や学校と地域の連携の取り組みの中から全ての学校種の在り方や危機管理について考察する。

授業計画

- 1 はじめに、公教育について
- 2 教育行政と公教育の仕組み
- 3 教育改革の歴史の概要
- 4 教職教養のまとめ、教育時事
- 5 現代の学校で学ぶもの。
- 6 学校経営と教師力
- 7 学校と地域との連携と協働Ⅰ
- 8 学校と地域との連携と協働Ⅱ
- 9 学校力と課外活動(部活動)
- 10 安全教育、安全管理についての取り組み
- 11 学級経営における効果的な指導法
- 12 学校が災害時に果たす組織的な役割
- 13 学校における危機管理のあり方
- 14 開かれた学校づくり、人権感覚の醸成法
- 15 教育経営の基本(保護者対応と姿勢)・まとめ

授業の方法

最初に配布したレジメを中心に授業を進める。レポートを書き、グループディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

WEBで世界各国の教育制度や教育の現状、教育方法について事前に調べておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%。

欠席について

やむえず欠席する場合は、事前事後に届け出ること。

テキスト

なし。

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度、レポートを重視する。授業中に配布したレジメや資料等を整理しファイリングしておくこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・健康			17717	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
竹安 知枝	選択	2				

授業の到達目標

・保育内容の領域「健康」について、他の領域とも関連させながら、説明ができる。・保育者として必要とされる知識や技能（乳幼児が生活習慣を獲得していくための、子どもとの関り方や援助の方法など）を身に付ける。・小学校の教科等とのつながりも意識した保育が実践できるように、それらのための資質と能力を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）I（知性）を養うことを目指す。

授業の概要

乳幼児期の発達（認識・思考や運動発達・生理的発達等）について学習し、この時期の基本的な生活習慣の獲得（食事・睡眠・運動）について、ディスカッションを行い、具体的に考えていく。また、子どもを取り巻く、現在における問題点について焦点をあて、その改善策について多面的に考えながら、保育者としての役割について様々な観点から考察し、発表を行う。そして、指導案の作成や模擬保育を通して、様々な指導場面を想定した保育実践ができるよう、授業を展開していく。

授業計画

- 1 保育内容の領域について
- 2 領域「健康」の全体構造
- 3 乳幼児期の発達 0～3歳児
- 4 幼児期の発達 4～6歳児
- 5 乳幼児期の食事(栄養)と睡眠
- 6 乳幼児期の運動(遊び) 0～3歳児
- 7 幼児期の運動(遊び) 4～6歳児
- 8 日常生活物を使用した遊びと自然遊び
- 9 基本的な生活習慣の獲得(食事・睡眠・運動)・教材の研究(重要な視点)と情報機器の操作方法
- 10 ケガ・病気の予防と感染症
- 11 指導案の作成(1)(書き方の基本)
- 12 指導案の作成(2)(テーマごとの作成)
- 13 模擬保育(1)(実践・振り返り)
- 14 模擬保育(2)(振り返り・改善における視点)
- 15 安全対策・小学校教科とのつながり・まとめ

授業の方法

講義を中心とする。テーマによっては、ディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①課題や発表に対するフィードバック
グループ発表や提出物に関して、全体へのフィードバックを行う。
- ②評価方法
提出物(レポート) 50% 発表 20% 学習意欲・授業態度 30%

欠席について

大学の規定に従う。(欠席回数が規定を超える場合は、評価の対象外となる)

テキスト

幼稚園教育要領(平成29年3月) 文部科学省

参考図書

授業内で紹介する。

オフィスアワー

授業前後の時間帯に、講師控え室(もしくは教室)で対応します。